

アートフィールドウォーキングガイド

2017 vol.11 (通巻 391号)

ギャラリー

11

GALLERY

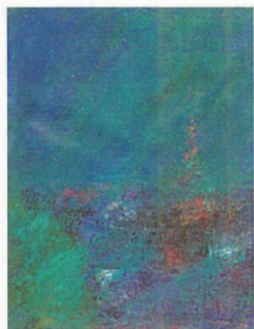
【私の10点】 河口龍夫

小川英晴の新アート縦横 No.20 「TOBI ART FAIR 2017」を観る

土屋禮一・浦上満・黒田耕治

11月の全国美術展【美術館／百貨店／画廊】スケジュール&マップ

アンチーム展 2017



松田 憲一
《エッフェルが見える》
F3号

アンチームとは、仏語で「くつろいでいる様」の意味。本展では毎年、サロンの親しみやすいムードのなか、どこか開放的で風通しのいい作品を楽しむことが出来る。文藝春秋画廊の閉廊直前に行った記念的な50回展。新たなステージにたつ今年の51回展は、ギャラリームサシで行う。

11月14日→11月18日 GALLERY ムサシ⑩

藤堂「バウ / バウ」



藤堂 《Schloss Hornhardt (ホンハルト城)》(部分)
レンガ、積層ガラス

藤堂は国内外から注目を集める彫刻家。特殊な来歴を持つ瓦礫や鋳物、古書などとガラスを組み合わせた作品で知られている。今回の個展では、これまでよりもさらに大掛かりなインスタレーションを提示。多彩な作家の想像の根源に迫る機会となる。

11月24日→12月23日

LOKO GALLERY

東京都 渋谷区 鶯谷町 12-6 03-6455-1376

荒木美由彫刻展

「わたしがわたしであること」“EXIST”



荒木美由
《Sein und Zeit》
白御影石
120 × 145 × 80cm

「100年後、石はわたしのみることができない景色をみることが出来る」と語る荒木美由。石の物質性に依拠し、その存在を懐疑的に、確かめるようにドリルで穴をあけるのは、逆に自身の存在確認のためのプロセスでもある。今後活躍が期待される若手彫刻家の一人だ。

11月1日→11月24日

天王洲セントラルタワー 1F アートホール
東京都品川区東品川 2-2-24 03-5462-8811

石橋聖肖像展 - Life-Scape -



石橋聖肖像《團界一雲に浮く》2016 銅、真鍮、銀、鉛

1965年茅ヶ崎市出身、現在も同地在住の彫金作家・石橋聖肖像は、ゆったり流れる時間のなかで精神的な深みを観照する。石橋のつくるミニチュアは生き生きとしたディテールが独特な世界観をもつ。落ち着いたある広いギャラリーでは、くつろぎながら作品を楽しむことができるだろう。

11月3日→11月30日 SALON DE DAHU

神奈川県中郡大磯町 高麗 1-3-23 0463-72-7500

Pick up

ルノワール展



ルノワール《野原、木立そして女性たち(カーニュ)》23 × 41cm

世界で最も愛され続ける印象派の画家ルノワール(1841~1919年)の作品の魅力は、ひとえに絵の前に立つすべての人間をたおやかな慈愛の内に包みこんでくれることにあると言っても言い過ぎではなからう。甘美で柔らかな女性像、豊かな色彩の野外風景、無機質な卓上の静物にまで温もりがある。本展には、ルノワールが30代の1870年代から南仏カールニユでの最晩年までに描かれた油彩による風景、静物、肖像画30余点が一堂に会す。

「ルノワールは絶えず成長している。いちばん新しい絵がいちばん美しい。そしていちばん瑞々しい」と1913年、ルノワールの死の数年前にアポリネールが見てとつたように、実はルノワールは、絶えず伝統と革新を意識し、新たな技法を模索し続けた人なのである。初期の革新に満ちたいわゆる印象派時代、1880年代の古典回帰時代、晩年の関節リウマチを押しての円熟ぶりと、この会場においてもその変化が縮図のように感じ取れることだろう。

会期中、12月3日はルノワールの命日にあたる。



ルノワール《レモンとカップのある静物》22.2 × 32.7cm

11月1日→12月24日

ギャラリーためなが (銀座) ⑬

ルノワール展

RENOIR

11.1wed-12.24sun

1870年代から最晩年まで、油彩画
40余点をお披露目致します。
銀座にお越しの際は是非お立ち寄り
くださいませ。

 ギャラリー ためなが

東京都中央区銀座 7-5-4

TEL (03) 3573-5368

月・土 10:00 - 19:00

日・祝 11:00 - 17:00

www.tamenaga.com



9784860472733

ISBN978-4-86047-273-3 C9071 ¥800E

株式会社ギャラリーステーション

TEL 03-3865-0088

定価 本体 800 円 + 税



1929071008007